

「お大事にしてくださいね。」

の言葉と共に、病院の窓口で返される保険証や診察券。私や姉が受診したときには、必ずもう一つ返してもらう物がある。それは、子ども医療費助成資格証という証書だ。私の住んでいる新居浜市には、十八歳以下の子どもの医療費は無料となる制度がある。無料と言っても医療費が発生しないという意味ではなく、本来支払うはずの自己負担分を、公費から助成してくれるというものだ。

私は夏休みに入る少し前、指を骨折して通院することになった。通院中に、母が窓口で財布を出すことは一度もなく、私は無事に治療を終え、元の生活に戻ることができた。お金の心配をせず治療を受けることができるこの制度に、私は何度も助けてもらっている。そしてこの制度の源となるのが、私たちが日々納めている「税金」だ。

税金は、私たちの生活を様々なところで支えてくれている。しかし日本では、税に対してマイナスな感情を抱く人が多い。それは一体なぜだろうか。私は、他の国と比較することで、その理由を考えてみることにした。

毎年国連が発表する「世界幸福度ランキング」で七年連続一位のフィンランド。この国では消費税が二十四パーセント、その他の税も高税率にも関わらず、国民の満足度は八割を超えている。それに対して、日本の順位は五十一位、なんと主要七カ国の中で最下位だという。私には、他国より税率の低い日本の方が幸せではないかと思ったが、調べていくうちに考えが変わっていった。

フィンランドでは、国民全員の医療費も大学までの教育費も全てが無償だという。そして、出産育児に関わる制度や失業保険など、国民の生活を守る為の社会保障制度が充分整っていることがわかった。私はとても驚いたが、高い税率でも、そのおかげや安心で豊かな生活を得られている、という実感があるからこそ、不満が出ないのだと思った。

私たちの日々の暮らしは、税金の支えがあるからこそ成り立っている。日本でも一人一人がもっとそれを実感できれば、幸福度の上昇に繋がっていくのではないだろうか。

日本は今後も少子高齢化が進み、社会保障費は更に必要になってくるだろう。そしてまた、私たち国民の負担は大きくなり、不満の声が上がるのが想像できる。だが、その声を減らす為にできることもあると、私は思う。

それは、国や自治体がもっと税金の使い道を広く明確にし、納得して納税してもらえるようにすること。そして私たちも感謝の気持ちを忘れず、税金についての知識をもっと深めていく努力をすることだ。

将来、私たちが社会に出て納税者となったとき、納得し、安心して税を納められる国であって欲しい。そして一人でも多くの人が、「日本に生まれて幸せだ。」と思える国になっていて欲しいと願っている。